

## 株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで

定時株主総会 毎年4月

期末配当金受領株主  
確定日 1月31日

中間配当金受領株主  
確定日 7月31日

公告の方法 電子公告により行う  
公告掲載URL <http://www.imura.co.jp>  
(ただし、電子公告によることができない事故、  
その他のやむを得ない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に公告いたします。)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第二部

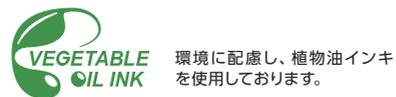
1単元の株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777 (通話料無料)

### 株式に関する諸手続きについてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しております。

株式会社 **イムラ封筒** 証券コード3955

# IMURA REPORT

## 第69期 中間報告書

2018年2月1日 ▶ 2018年7月31日

### INDEX

株主の皆様へ	1
連結財務諸表	3
トピック	5
IMURA コラム	6
メモルダールお届けのご案内	7
株式の状況・所有者別状況	9
会社の概要・役員・事業所	10



## 株主の皆様へ



代表取締役社長 井村 優

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第69期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を兼ね、事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策、日銀の金融緩和策を背景とした企業収益ならびに雇用・所得環境の改善もあり、総じて緩やかな回復基調で推移いたしました。

郵便およびメール便市場においては、普通通常郵便物の取扱数量は持ち直しの動きが確認され、メール便の取扱数量も微増で推移するなど、底打ちが期待される状況にあります。しかしながら、ダイレクトメール市場の動向は、“折込み・ダイレクトメールの郵便料等”（経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」による）の実績が依然として減少傾向にあることから、当社グループを取り巻く環境は先行き不透明な状況となっております。一方で、通販市場は、アパレル通販やBtoB通販の伸張を背景に、堅調な動きを維持しており、包材関連需要の拡大が期待されます。

このような情勢のもと、当社グループは、「Give & Give & Give(全ての人に最高の付加価値を届け続ける)」をテーマに掲げ、お客様に満足いただけるソリューションサービス分野への取り組みを、全社を挙げて進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、メーリングサービス事業の不振等により、118億91百万円(前年同期比1.2%減)となりました。損益面につきましては、減収や商品売上の構成比上昇による売上総利益率の低下等により、営業利益は3億98百万円(前年同期比28.2%減)、経常利益は4億58百万円(前年同期比24.1%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、100周年記念行事費用として1億35百万円を特別損失に計上したこともあり、2億63百万円(前年同期比35.5%減)となりました。

株主の皆様におかれましては、何卒、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年10月

## セグメントの概況

## 封筒事業

エリア戦略として首都圏における売上の拡大を図るべく、既存得意先への深耕および新規開拓を進めた結果、地方市場の不振の影響を吸収し、売上高は95億12百万円(前年同期比1.3%増)となりました。損益面では、増収に加え、原材料費および内製化による外注加工賃の抑制等により、上述の売上総利益率の低下による影響を吸収し、営業利益は4億1百万円(前年同期比7.6%増)となりました。

## メーリングサービス事業

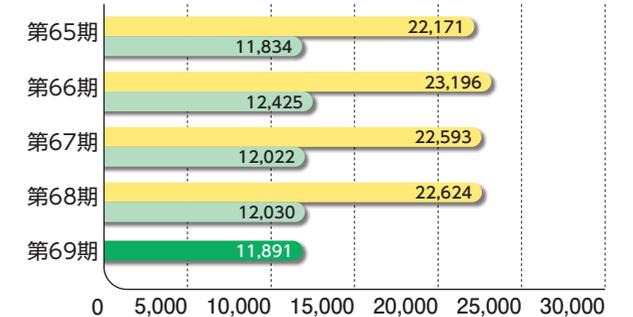
企業のアウトソーシング需要が高まる中、ビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)市場における販売力強化を継続し、新規案件の獲得を進めるものの、前年同期における大口スポット案件の反動減等により、売上高は15億49百万円(前年同期比8.3%減)となりました。損益面では、減収に加え、サービス領域拡充に向けた設備投資に伴う償却負担増や人員増強による労務人件費の増加もあって、36百万円の営業損失(前年同期は営業利益98百万円)となりました。

## その他

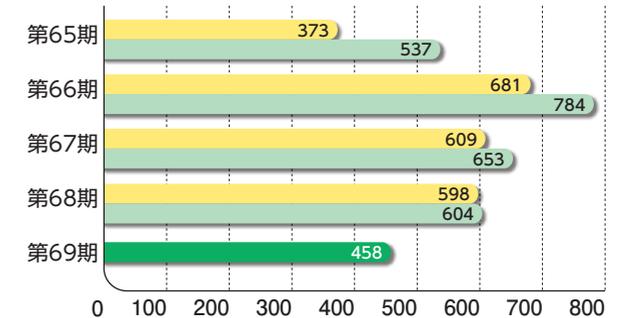
封入機の製造販売を手掛ける子会社の業績が低調であったことを受け、売上高は8億28百万円(前年同期比12.8%減)、営業利益は30百万円(前年同期比62.2%減)となりました。

## 財務ハイライト(連結)

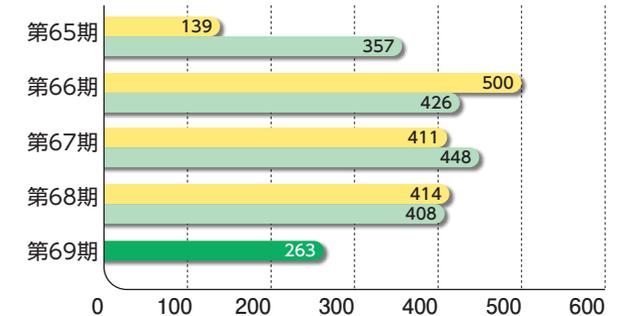
## 売上高(単位:百万円)



## 経常利益(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する純利益(単位:百万円)



## 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前期末 (2018年1月31日現在)	当第2四半期末 (2018年7月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>8,154</b>	<b>8,526</b>
現金及び預金	2,698	2,519
受取手形及び売掛金	3,280	3,628
電子記録債権	529	610
たな卸資産	1,086	1,085
その他	560	682
<b>固定資産</b>	<b>9,453</b>	<b>9,347</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,632</b>	<b>7,531</b>
建物及び構築物	1,559	1,525
機械装置及び運搬具	1,945	1,818
土地	3,655	3,655
その他	472	532
<b>無形固定資産</b>	<b>60</b>	<b>61</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,761</b>	<b>1,754</b>
投資有価証券	1,185	1,161
その他	575	592
<b>資産合計</b>	<b>17,608</b>	<b>17,874</b>

## 資産の部

受取手形及び売掛金の増加などにより、前期末に比べ2億65百万円増加し、178億74百万円となりました。

単位：百万円

科目	前期末 (2018年1月31日現在)	当第2四半期末 (2018年7月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>4,116</b>	<b>4,285</b>
支払手形及び買掛金	1,509	1,488
電子記録債務	993	1,078
1年内返済予定の長期借入金	39	5
その他	1,574	1,713
<b>固定負債</b>	<b>596</b>	<b>561</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,712</b>	<b>4,847</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>12,142</b>	<b>12,282</b>
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,365	1,365
利益剰余金	9,786	9,926
自己株式	△ 207	△ 207
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>708</b>	<b>687</b>
その他有価証券評価差額金	406	392
退職給付に係る調整累計額	302	295
新株予約権	34	46
非支配株主持分	10	10
<b>純資産合計</b>	<b>12,895</b>	<b>13,026</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>17,608</b>	<b>17,874</b>

## 負債の部

電子記録債務や賞与引当金の増加などにより、前期末に比べ1億34百万円増加し、48億47百万円となりました。

## 純資産の部

利益剰余金の増加などにより、前期末に比べ1億31百万円増加し、130億26百万円となりました。  
なお、自己資本比率は前期末に比べ0.4ポイント低下し、72.6%となりました。

## 連結損益計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期 (2017年2月1日から 2017年7月31日まで)	当第2四半期 (2018年2月1日から 2018年7月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>12,030</b>	<b>11,891</b>
売上原価	9,343	9,361
<b>売上総利益</b>	<b>2,686</b>	<b>2,529</b>
販売費及び一般管理費	2,131	2,131
<b>営業利益</b>	<b>555</b>	<b>398</b>
営業外収益	58	70
営業外費用	9	10
<b>経常利益</b>	<b>604</b>	<b>458</b>
特別利益	21	13
特別損失	10	① 138
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>615</b>	<b>333</b>
法人税、住民税及び事業税	198	150
法人税等調整額	7	△ 80
<b>四半期純利益</b>	<b>409</b>	<b>263</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	△ 0
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>408</b>	<b>263</b>

## ① 特別損失

創業100周年に伴う記念式典のイベント費用等1億35百万円を100周年記念行事費用として特別損失に計上いたしました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期 (2017年2月1日から 2017年7月31日まで)	当第2四半期 (2018年2月1日から 2018年7月31日まで)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>286</b>	<b>196</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△356</b>	<b>△207</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△229</b>	<b>△171</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>1</b>	<b>△1</b>
<b>現金及び現金同等物の減少額</b>	<b>△297</b>	<b>△184</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>2,930</b>	<b>2,557</b>
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>2,632</b>	<b>2,372</b>

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の収入は1億96百万円となりました。これは主に、資金の増加要因として税金等調整前四半期純利益3億33百万円、減価償却費3億6百万円、仕入債務の増加額64百万円、資金の減少要因として売上債権の増加額4億28百万円、法人税等の支払額1億44百万円などによるものです。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の支出は2億7百万円となりました。これは主に、資金の減少要因として有形固定資産の取得による支出1億73百万円、敷金及び保証金の差入による支出31百万円などによるものです。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の支出は1億71百万円となりました。これは主に、ファイナンス・リース債務の返済による支出15百万円、長期借入金の返済による支出34百万円、配当金の支払額1億21百万円などによるものです。

## ■ 配当金について

当期の中間配当につきましては、当初の予定通り見送らせていただくこととなりました。

## 「創業100周年記念式典」を開催いたしました。～2018年7月7日～

当社は、おかげさまで創業100周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。以下に7月7日に開催いたしました記念式典より社長スピーチの一部をご紹介します。



### “Challenge for the Next 100”

これは当社が中期計画を実行していくにあたっての合言葉です。次の100年に向けて新しい会社へと変わっていかねばなりません。変わらなければ生き残れない時代なのです。

### “Push the Envelope”

この言葉は「可能性の限界に挑戦する」という意味を持っています。私たちが限界に挑戦していきましょう。その先には必ず明るい未来が待っています。

### “Smile!”

全ての人の笑顔に貢献するために我々から笑顔をつくりましょう。笑顔で新しい100年をいまこの場から始めましょう。



◀会場の大阪府立国際会議場には全国から約800名の従業員が集まりました。

### ～中期経営計画における経営ビジョン～

私たちは次の100年もコミュニケーション分野において最高の付加価値を提供します。そして、全ての人の笑顔に貢献します。



▲ライブペイントアーティスト・さとうたけし氏制作による当社創業者・井村福松の肖像画です。



## こころに残る 心手紙術 — 第7回 —

### 一筆箋で添えられる、 手書きのひと言が 人と人との温かい交流に

一筆箋とは、ひと言、ふた言の、まさしく一筆を添えるための短冊形便箋です。書けるスペースは、通常の便箋の約5分の1。だからこそ、手紙を書くことが苦手な方も気軽に利用できるのではないのでしょうか。今回は、一筆箋の上手な活用術をご紹介します。

### 季節やお相手によって デザインを使い分けるのも楽しみ

貸していた本を返してもらった時に、短い感想の書かれた一筆箋が挟まれていたら嬉しいものですね。便箋より気軽に、メモ用紙や付箋よりはかしまった印象を与える一筆箋は、目上の方に使っても失礼にならず、幅広いシーンで活躍するコミュニケーションツールだといえます。

最も使いやすいのは、相手も季節も選ばず、ビジネスシーンでも使える絵柄のないものです。使い慣れてきたら、季節の花など絵柄をいろいろ揃えて、例えば秋には紅葉の柄や、猫好きの方には猫の柄の入ったものなどを使えば、より喜ばれることでしょう。

### 余白はたっぷり こまめに改行して美しく

一筆箋はスペースが限られているからこそ、ぎっしり文字で埋めるのは野暮というもの。色紙に書かれたかな文字のように余白を取り、こまめに改行するのが美しく見せるコツです。一筆箋といえども、相手の名前も自分の名前も省略せずにフルネームで書くこと。2枚にまたがってはいけないというルールはありませんが、3～4枚にもなるようであれば普通の便箋を使いましょう。1枚でも封筒に収めて添えれば、より丁寧でかしまった感じになります。

お土産やプレゼントなどを渡す時のほか、ビジネスシーンでもぜひ、手書きのチカラを活用したいもの。書類だけが郵送されてくるよりも、ひと言添えられているほうが相手への親しみが増します。また、上司や同僚のデスクに確認してほしい書類などを置く時も、一筆箋が添えられていれば、人間関係の潤滑油になることでしょう。

メモルダーお届けのご案内

株主の皆様へ

# 2019年版メモルダーをお届けいたします。

株主様の日頃のご支援に感謝し、今年も当社オリジナル商品のポケット付きカレンダー「メモルダー」をお届けいたします。好きなメモルダーをお届けいたしますので、同封のお申込みはがきにてご希望をお知らせください。

「メモルダー」のお届けは、7月31日現在の株主名簿に記載または記録された**1単元(100株)以上**ご所有、かつお申込みはがきをご返送頂いた株主様に限りさせていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

## お申込み方法

1単元(100株)以上ご所有の株主様には、お申込みはがきを同封しておりますので「お名前」「電話番号」「株主番号」「ご希望の商品番号(1~5の中から1点)」をご記入のうえ、ご返送ください。

今回よりはがきのご返送がない場合はお送りいたしませんので、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。なお、特に指定のない場合は[1.実用メモルダー]をお届けいたします。

**お申込み受付期限** ▶ 2018年10月末日(当社到着分)

**お届け** ▶ 2018年12月上旬の予定



**商品番号 1 実用メモルダー** 六曜・旧暦もわかる超人気商品

二十四節季や六曜・旧暦も確認できます

▶文字月表タイプ(壁掛)

見開きサイズ : 245×443mm ※1:色覚の多様性に配慮し、平日と休日の区別がしやすいよう、色づかいを工夫しています。

ポケット数 : 12枚

カラーユニバーサルデザイン認定製品\*1



**商品番号 2 クラフトメモルダー** クラフト紙の優しい風合いが人気

ブラウンの優しい風合い

▶写真タイプ(壁掛)

見開きサイズ : 245×443mm

ポケット数 : 12枚

VEGETABLE GEL INK

**Renewal**  
表紙が新デザインに!  
数字の大きさ、色を改良!

**Renewal**  
3ヶ月分のミニカレンダーがついて機能性アップ!



**商品番号 3 花メモルダー** ラインナップ中、最大のサイズ

季節を感じる鮮やかな花の写真

▶写真タイプ(壁掛)

見開きサイズ : 270×522mm

ポケット数 : 12枚



**商品番号 4 卓上メモルダー** 実用性が高い卓上タイプ

前月・翌月・翌々月がついています

▶文字月表タイプ(卓上)

サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)

カラーユニバーサルデザイン認定製品\*1

UD FONT



**商品番号 5 ナチュラル卓上メモルダー** 素朴な風合いが人気

可燃ごみに捨てられる紙素材リングを採用

裏面にはポケットと、メモに使えるフリースペース

▶文字月表タイプ(卓上)

サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)

UD FONT

VEGETABLE GEL INK

## 株式の状況・所有者別状況

株式の状況 (2018年7月31日現在)

発行可能株式総数 **38,000,000株**

発行済株式の総数 (自己株式 428,771株を含む) **10,729,370株**

株主数 (前期末比106名減) **1,974名**

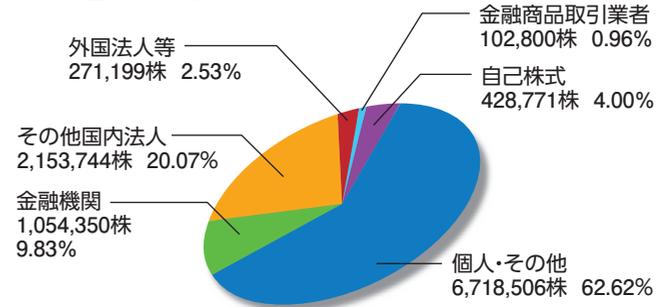
### 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
イムラ封筒社員持株会	799,552	7.76
井村 優	415,500	4.03
有限会社ケイ・アンド・アイ コーポレーション	385,250	3.74
井村 達男	367,000	3.56
有限会社アイ・エム興産	358,750	3.48
井村 守宏	356,000	3.45
井村 美和	300,000	2.91
日本紙パルプ商事株式会社	300,000	2.91
井村 光一	279,000	2.70
井村 美保子	254,500	2.47

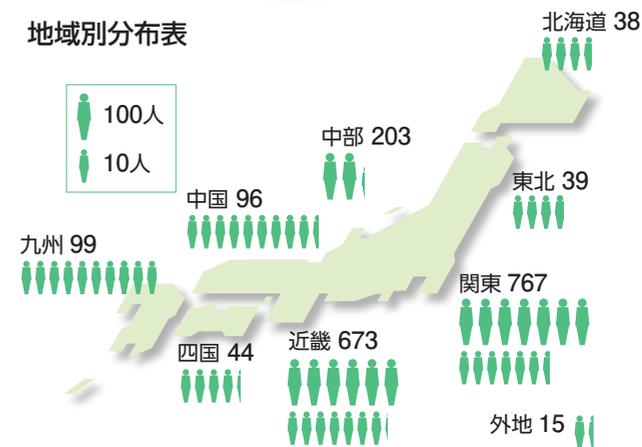
(注) 1. 当社は自己株式を428,771株保有していますが、上記大株主からは除いております。  
2. 持株比率は自己株式数(428,771株)を控除して算出しております。

所有者別状況 (2018年7月31日現在)

### 所有者別分布表



### 地域別分布表



## イムラだからできる、企業のトータルビジネスサポート。

独自の商品を生み出す封筒事業から、メーリングサービス、ITシステム提案まで。イムラ封筒はビジネスコミュニケーションをトータルサポートします。

### メーリングサービス事業

封筒の新しい価値をお客様に提案するサービスです。各種DMの企画から宛名印刷・封入・加工・発送、顧客リスト管理まで総合的なビジネスサポートを実現。お客様のコミュニケーション活動の効率化やコストダウンを強力に支援します。

### 封筒事業

数々の新商品を提案する開発力と、ロットの大小に関わらず常に安定した品質を低コストで提供する生産力、お客様のニーズに迅速・的確に答える機動力を備えています。コミュニケーションの可能性を追求し続けるイムラ封筒のコア事業です。

### 情報システム事業

IT分野でも、イムラ封筒は社会に貢献しています。お客様のニーズやビジネススタイルに最適なシステムやソフトウェアを提供。お客様利益を常に最優先する姿勢はこの分野でも貫かれています。



## 会社の概要・役員・事業所

会社の概要 (2018年7月31日現在)

商号 株式会社イムラ封筒 (英文名:IMURA ENVELOPE CO.,INC.)

本店 〒540-0026 大阪市中央区内本町二丁目1番13号  
電話(06)6910-2511(代表)

創業 大正7年7月

設立 昭和25年2月

資本金 1,197,986,033円

事業内容

1. 封筒、袋などの紙製品、文具の製造、販売及び事務用品、日用雑貨品の販売
2. 不織布、合成樹脂シートを素材とする封筒、袋類、建築・造園資材の製造、販売
3. 印刷物などの物品の保管、封入、包装、梱包及び発送業務の代行
4. 倉庫業
5. 印刷、封入及び包装用機械の企画、研究開発、製造、販売及び輸出入
6. ダイレクトメールの発送及び請求書の発行等に関する情報処理業務の受託
7. 広告代理業務
8. コンピュータ及び周辺機器、事務用機器の販売、教育指導及び保守管理
9. コンピュータソフトウェアの企画、開発、制作、販売及び保守管理
10. インターネットへの接続サービス業務
11. 電気通信工事業
12. 医療用事務機器及び資材の販売
13. セミナーの企画、立案、制作、斡旋及び運営
14. 前記各号に付帯する一切の業務

従業員数 連結 876名 単体 810名 (2018年7月31日現在)

子会社 東杏印刷株式会社 株式会社メトロテック

役員 (2018年7月31日現在)

取締役会長 井村 守宏

代表取締役社長 井村 優

専務取締役 射手矢 政信

常務取締役 吉川 伸昭

取締役 食野 直哉

取締役 山下 登志夫

取締役 梶 康博

取締役 前田 晋二

取締役 炭家 裕之

取締役 山田 実

社外取締役 白田 敬

常勤監査役 福塚 昌義

社外監査役 山田 拓幸

社外監査役 清水 健一

執行役員 山口 正恭

執行役員 森田 旭

事業所 (2018年7月31日現在)

